

社会的養護経験者の進路と支援制度・取り組みの分析

齋藤 鈴

児童養護施設をはじめとする社会的養護のもとで育った子どもは、原則として18歳で退所となり、その後は自分の進路を歩むことになる。しかし東京都の調査によると、大学等への進学後に中途退学を選択する者が約2割存在することが明らかになった。そこで、本論文では社会的養護経験者の進路や現状の取り組みと課題を明らかにするため、研究に取り組んだ。

第一章では、社会的養護経験者に関する既存調査の分析と一般的な統計の比較分析を行った。これにより、社会的養護経験者の中退率は全国統計よりも高いことや、経済的な理由で中退する者が多いことが明らかになった。また、学歴と収入に負の連鎖が生まれていることが明らかになり、社会的養護経験者の中退や学歴の低さの課題が明確化された。

第二章では、国・法人・各自治体が社会的養護経験者に対し行っている取り組みや制度を経済面、基盤、対人援助の3つに分けて分析し、第一章で明らかになった課題との整合性を分析した。これにより「社会的養護経験者」に着目した取り組みが少ないことが分かった。また心理的・精神的ケアの観点から「対人援助」が重視されることが明らかになった。

第三章では、来年4月から施行される「大学無償化法」制定までの背景と、施行上の利点と課題点に関して考察を行った。本法律施行により、経済的に困窮している家庭の進学率の向上や高等教育卒業後の学歴により収入の増加が期待され、貧困の連鎖を断ち切ることが期待できる一方、支給時期が遅いため家庭での負担は変わらないことや、大学進学支援以前の課題がまだ解消されていないという課題を抽出した。

以上の分析から、社会的養護経験者に対する進学の経済的な援助は未だ不十分であり、特に「社会的養護」に着目した支援や、経済面だけでなく心理的・精神的に支えていく取り組みの展開が必要であることが明らかとなった。